

主な成果

○ 新規ユーザー獲得、新規分野からの利用拡大

各機関での強み・弱みを補完する施設・設備の利用が可能となったことで、各機関それぞれ既存のユーザー利用中心であったものが、新規ユーザーの獲得が可能となった。また、広報活動等の効果もあり、従来利用分野の利用だけではなく、新規分野の利用が増えることで、新たなイノベーションへの貢献や、新たな知見獲得にも貢献している。

○ ワンストップサービス化による運営の効率化

各機関独自に取り組んできた運営業務（利用手続き、広報活動、成果公開など）を、ワンストップにより一元化することで、効率的な運営が可能となった。ユーザー側に対しても、一元的な情報発信や利用相談窓口により、利便性が向上している。

○ ノウハウ・技術や成果の共有による技術力向上、ユーザー支援

各機関それぞれで構築してきたノウハウ・技術などを他機関とも共有することで、技術力向上や人材育成にも貢献している。また、成果データベースなどの公開により、ユーザーへの支援にも貢献している。加えて、各機関連携による技術の高度化に係る取組も広がりつつある。

共用プラットフォームで得られた成果と知見を更に発展させていくことが必要。

今後の課題（先端研究設備プラットフォームプログラムにおいて特に重点的に取り組むべき事項）

国内有数の先端的な研究施設・設備について、全ての研究者が使いたい施設・設備を気軽に活用でき、研究に打ち込める環境を実現するため、**遠隔利用・自動化を図りつつ、ワンストップサービスによる利便性向上を図る。**これにより、これら施設・設備の全国的な利活用を促進し、ポストコロナでの**研究生産性の向上とイノベーションの推進**を実現。

①各機関の施設・設備の連携の更なる推進

- 課題に対するコンサルティング機能の確立（適切な解決策の提示、参画機関連携による複合解析の実施等）
- 利用全体のシステム化、集約した情報の活用（利用・成果の可視化、エビデンスに基づく取組の検討）
- 全国的なプラットフォーム参画機関の拡大（学会等との連携）

【その他望まれる取組】

- ✓ 各大学等で保有する設備・機器との連携（コアファシリティ構築支援プログラム等との連携等）
- ✓ 民間企業等と連携した機器の共同開発・共同運営（技術の先鋭化・共用化）
- ✓ 国内有数の研究施設・設備としての最適化の検討（ロードマップ作成等）

②遠隔地からの利用・実験の自動化等に係るノウハウ・データの共有

- 相互遠隔利用システムの構築
- データ・セキュリティポリシー等の確立・機関間調整
- データの共有・標準化（測定データの構造化・標準化、ユーザーの組織化、コンソーシアム等における利活用の仕組みの構築等）

【その他望まれる取組】

- ✓ データ解析等に基づく計測・解析技術の高度化

③専門スタッフの配置・育成の強化

- 各機関やプラットフォーム全体としての専門スタッフの配置・育成（専門的な職種やキャリアパスの確立、学会・コアファシリティ等と連携した仕組み等）
- 遠隔利用などの新たな技術に対応する人材育成